

④新規用途開拓による地域農林水産物の需要拡大、ブランド向上

十勝の主要農産物である甜菜、豆類等を活用した加工品の開発と販売

十勝産の甜菜（ビート）、豆類等を真空フライヤーで加工する食品を開発・販売する。

➤ 連携体

農林漁業者

(株)岡本農園(農業)、(有)尾藤農産(農業)、横山 強(農業)

農地、労働力、機械、知識、ノウハウを活かして、十勝地域で甜菜、豆類等を生産する。

中小企業者

(株)江戸屋(食料品製造業)

製造設備、技術、知識、アイデアを活かして、加工食品を開発・生産する。また、土産店、量販店等の販路を活かして、商品を販売する。

サポート機関等

(独)中小企業基盤整備機構北海道本部、公益財団法人とかち財団
(一社)北海道中小企業家同友会とかち支部

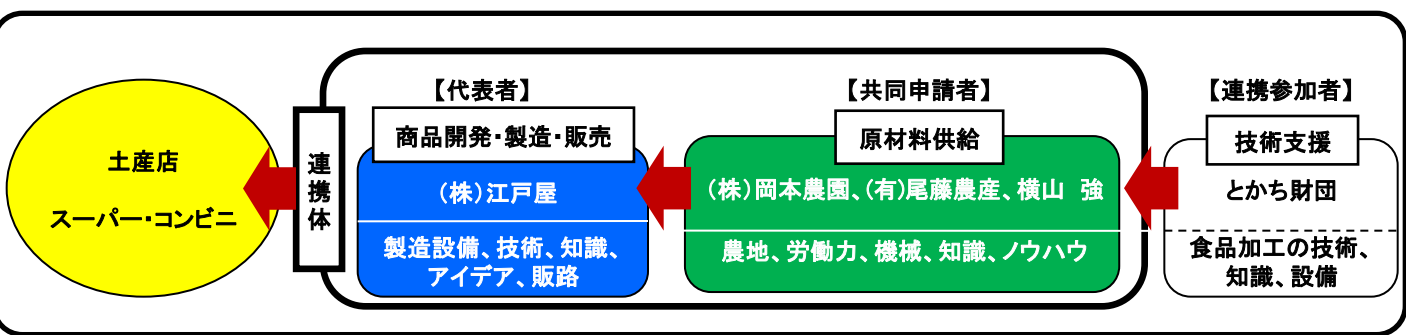
➤ 連携の経緯

(株)江戸屋は、珍味卸売業として帯広市で創業。加工品の開発・製造も手がけて事業を拡大。近年、主力製品の水産珍味の市場が縮小傾向であるほか、原料価格が継続的に上昇するなど、経営環境は厳しさを増している。このような中、差別化できる新商品の開発が課題となっており、創業の地「十勝」に着目。日本有数の農業地帯である十勝の農業者と連携して、特徴ある商品開発に乗り出した。

十勝地域では以前から農業者と商工業者による交流が活発であり、(株)岡本農園は(株)江戸屋と共同でプリンやゼリーを開発・販売しているところ。このたび両者は、輪作体系の一つを構成する甜菜（ビート(砂糖の原料)）や豆類等の十勝の主要農産物の加工食品の開発に、とかち財団の協力を得て取り組んだ結果、試作品において相当程度の可能性を見いだした。今後の本格展開にあたり、十分な質・量の甜菜、豆類等を確保する必要があり、(一社)中小企業家同友会とかち支部などを通じて農業者を探した結果、(有)尾藤農産、横山強と出会い、4者連携して本事業に取り組むこととなった。

➤ 連携に当たっての課題や工夫等

(株)岡本農園と横山強が生産する甜菜、(有)尾藤農産が生産する豆類等を、(株)江戸屋が買い取り、同社が洗浄・皮むき・カットを行った上で、真空フライヤーで揚げる加工食品を開発・製造・販売する。北海道土産を購入する旅行者をターゲットとし、素材本来の味を楽しむ消費者への販売を目指す。当初は土産物市場を狙い、道内土産店(空港、JR販売店)、道の駅など(株)江戸屋の既存商品の卸先に販売する。発売当初は、プロモーションを十勝地域で集中的に行う。十勝地域である程度の販売実績や評判を築いた後、十勝以外の地域へ進出する。計画期間後半は、小売店向けの商品への改良、パッケージ開発等により、スーパー、コンビニエンスストア等へ販売も目指す。



➤ 連携による効果

農林漁業者

5年で約480万円の売上高増加

甜菜、豆類等の生産拡大により売上が増加し、経営の安定化が期待される。

中小企業者

5年で5,000万円の売上高増加、十勝の新たな土産物の開発

十勝産の甜菜、豆類等を使った十勝の新たな土産物を開発・販売することで売上増加が期待される。

➤ 代表企業等の連絡先

企業等名：(株)江戸屋

T E L : 0155-33-8114

E - m a i l : m.shionoya@edoya-group.co.jp

所在地：北海道帯広市西19条南1丁目

F A X : 0155-34-0281

ホームページ：http://www.edoya-group.co.jp/